

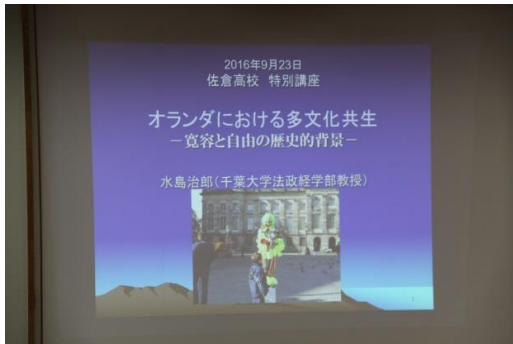
## GL アクティブ（国内研修） 実施講座名 オランダ（海外派遣）特別講義

- 1 目的 オランダにおける多文化共生の現状，課題に関する知識を得ることにより，今後の課題研究を進めていく手がかりを得ると共に，課題研究の内容を深化させ，内容に独自性を出す糸口を見つける。
- 2 日時 平成28年9月23日（金）
- 3 参加者 SGH 海外研修（オランダ派遣）参加者5名、1年GLクラス40名
- 4 講師 千葉大学法政経学部 水島治郎教授（専門：ヨーロッパ政治史、ヨーロッパ比較政治、元ライデン大学客員研究員）
- 5 演題 「オランダにおける多文化共生—寛容と自由の歴史的背景」

### 6 内容

オランダの国土の大部分は干拓によって作られた。オランダの文化は隣国のベルギーの文化とは対照的で、プロテスタント的な禁欲的文化、中産階級を軸とする市民的文化が発達した。オランダは寛容と自由の精神、最先端と改革、ワーク・ライフ・バランス等モデルとして見なされてきた。マイノリティ宗派やユダヤ人を受容してきたことなど、「多様性と自由」を尊重してきた歴史がある。アムステルダム・スキポール空港では様々な宗教のお祈りが出来る場所があり、様々な宗教が共存し実践できることの象徴的な場所となっている。創造産業の育成や Floating House 建設等、様々な斬新な取組が今後も注目される、といったことをお話いただいた。

講演後、活発な質疑応答が行われた。「日本人とオランダ人のコミュニケーションの方法の違いは何か。」という質問に対しては、「日本人のようにわからないのにニコニコとしている人は信用されない。」との回答だった。生徒が課題研究テーマとして興味を持っている「現在もオランダでは移民・難民は歓迎されているのか」という質問に対しては、「イスラム系の難民はあまり歓迎されていない。それはオランダ人の多文化を尊重するという姿勢故にイスラムの女性蔑視を快く思わない風潮があること。従ってイスラム文化が排他的になっているというパラドックスが起こっている」という大変興味深いお話を伺うことができた。



活発な質疑応答



オランダ派遣生徒と記念撮影